

東亞天文協會
—(觀測部月報)—

流星課月例報告 (76)

課長 小楨孝二郎

10月に入りて上旬から月末まで病臥した爲、流星觀測の整理出來ず、そのままになり、まことに申譯ない。昨今より身體全く回復したので、再び活動を開始したいと思つてゐる。(小楨)

× × ×

前回報告後、報告の到着したものは、實方氏の9月分の觀測、吉井氏の8、9月分の觀測の外に、新しく松橋高四郎氏(東京市)の10月分の觀測がある。この他本田、堀田、前田(藤子)其他の方から火球報告があつた。又別に吉井氏の流星寫眞(8月11—12日)二個が報告されてゐる。其の一は見事な光度變化があらはれてゐる。

10月のオリオン流星群は昨年異常な出現を示して吾人を驚かしたものであるが、本年は月明の爲光度の觀測は出來なかつた。小楨(茂代)が21日及23日の兩朝月明を冒して觀測したところによると0等以上の强光のものも若干あり、少くとも例年以下の出現ではなかつた様である、23日には金星程度のものも一個あつた由。(11月4日記)

遊星面課月報

(9月)

9月に入つても氣流状態は恢復しない。時局の反映とも思はれないが、遊星面のスケッチは全然集まらない。木星は、小口經でも、相當面白い結果が見られるから、觀測して頂き度い。1937年度の火星見取圖は、目下整理をしつつあ

るから、「天界」近號に發表出来る豫定.

(10月)

誠に淋しい10月であつた. 花山で研究中の渡邊恒夫氏が、令兄夫妻が應召されたので、已を得ず歸省された. 然し同氏は、歸省後、15cmの反射鏡で、木星、土星、金星のスケッチ合計12枚を送付された. やらうと決心すれば10~15cmの器械には、木星、土星、金星と、目標は決して不足するものではない. 渡邊氏のやうな人が二人も三人も出て呉れるのを待つて居る. 少し興が乘れば、遊星面程面白いものはない.

變光星課報告 (41)

倉敷 小山 秋雄

1937年8月—10月の觀測報告數 (天界197號の續き)

氏名	今津 (大阪) 續	木邊 (野洲) 成磨	香掛 (長野) 七二	佃 (京都) 泰三	小澤 (名古屋) 喜一	西井 (大阪) 宗一	西川 (大阪) 英男	河合 (大連) 孝一	廣瀬 (美濃) 永治郎	實方 (京城) 雅雄	松橋 (東京) 高四郎	小山 (倉敷) 秋雄	合計
報告回数 (8回の中)	3	3	2	0	1	2	3	0	1	3	2	3	
觀測數	64	1200	20	0	60	85	20	0	15	90	9	568	2131
1937年度(1936年11月—1937年10月)累計													
報告回数	11	12	8	6	3	8	11	1	6	9	3	12	
觀測數	301	3556	196	197	383	232	89	51	139	122	26	1592	7083

累年度變光星報告數

年次	觀測者數	觀測數
1928	7	322
1929	6	1056
1930	2	409
1931	2	131
1934	10	2268
1935	25	9410
1936	18	8311
1937	12	7083

此の二つの表より指摘できる主なるものは、昨年度より一千も多く觀測し總數の半分を僅に越へた木邊氏の觀測があつたにも拘らず總數が昨年度より一千以上減少した事及觀測者が三分の二になつた點であらう. 事變の長期化、更はその擴大の見透しの下では、さゝやかな我々の仕事も天界に突發事でも生ぜぬ限り樂觀的な事は望まれぬが、せめて觀測總數七千の水準は維持して行きたい.

太陽課 黒點相對數報告 (1937年10月)

觀測者 (觀測地)	齋藤 (平(臺中市老松町))	後藤 (一(佐賀市松原町))	久保 (康則(高知高等學校))	本田 (實(廣島縣瀬戸村))	伊達英太郎 (兵庫縣雲雀丘)	改發 (香嶋(神戸市關守町))	三宅 (和夫(大阪府豊中市))	野口登美雄 (大阪市曾根崎)	木邊 (成麿(滋賀縣中里村))	正村 (一忠(岐阜市溝旗町))	沓掛 (七二(長野縣青木村))	大石 (辰次(靜岡縣吉永村))	淺居 (正雄(橫濱保土谷區))	森久保 (茂(橫濱市中區))	堀田 (泰生(橫濱市鶴見區))	御供 (印孝(東京市立一中))	菊池 (芳雄(岩手縣水澤町))	田村 (正三(函館市宮前町))
鏡徑 mm	50	60	75	50	80	150	50	76	75	25	102	55	58	45	38	57	50	58
倍率	50	80	53	59	70	68	88	50	60	48	75	64	60	60	50	50	50	64
1	曇	雨	缺		雨	雨	雨	曇	雨	雨	雨	曇	雨	雨	雨	雨	雨	曇
2	忙	曇	167		忙	178	178	111	125	193	193	曇	雨	雨	雨	雨	曇	252
3	忙	曇	127		忙	246	246	154	145	499	499	曇	曇	曇	曇	曇	曇	376
4	缺	曇	104		缺	293	293	158	145	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	315
5	缺	曇	曇		曇	修	理	中	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
6	缺	曇	曇		曇	259	259	166	85	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
7	缺	曇	86		曇	171	171	104	89	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
8	缺	曇	171		曇	220	220	151	182	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
9	缺	曇	103		曇	189	189	154	172	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
10	缺	曇	110		曇	159	159	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
11	缺	曇	136		曇	221	221	138	146	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
12	忙	曇	125		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
13	忙	曇	115		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
14	忙	曇	97		曇	171	171	115	93	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
15	忙	曇	116		曇	181	181	134	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
16	忙	曇	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
17	忙	曇	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
18	旅	曇	101		曇	100	100	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
19	旅	曇	116		曇	137	137	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
20	旅	曇	97		曇	100	100	111	105	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
21	旅	曇	75		曇	85	85	98	103	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
22	旅	曇	83		曇	101	101	102	88	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
23	旅	曇	73		曇	103	103	100	79	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
24	旅	曇	45		曇	83	83	*	84	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
25	旅	曇	67		曇	102	102	123	121	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
26	旅	曇	66		曇	94	94	98	113	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
27	旅	曇	52		曇	120	120	106	149	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
28	旅	曇	110		曇	138	138	109	154	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
29	旅	曇	109		曇	135	135	166	198	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
30	旅	曇	124		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
31	旅	曇	97		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
日數	6	23	17	15	8	10	18	11	19	16	14	9	12	3	3	13	12	13
平均	—	97	152	110	—	128	189	132	118	82	143	—	141	—	—	88	114	225

*伊達氏24日は悪氣流のため不能。

☒沓掛氏は緯度を、正村氏は肉眼に見えた4群を附記されてゐます。

☒今回より黄道光の本田實氏(廣島縣沼隈郡瀬戸村黄道光觀測所)をお迎へしました。

☒原稿締切の都合上御報告はなるべく至急にお送り下さい。

11 月 號 の 正 誤

11月號所載の1937年9月の太陽課黒點相對數報告中下の如く一部訂正いたします。

後 藤 氏 (佐賀)	9 月 2 日の相對數を	181
三 宅 氏 (豊中)	9 月の相對數平均を	125
大 石 氏 (静岡)	9 月 26 日の相對數を	105
ク ク	9 月の相對數平均を	98
森久保氏 (横濱)	9 月 2 日の相對數を	108
ク ク	9 月の相對數平均を	115

本誌上の月例報告は毎回一應は御原簿とお引合せの上、間違ひがございましたら御速報下さるようお願い申し上げます。

またプレテンに載せるためお名前正しい読み方を承りたいと思ひます。次回御報告のとき御姓名に(また読み難い地名にも)振假名をおつけ下さい。

— P —

彗 星 課

今年初以來發見された彗星一覽表

1937 a	“ダニエル彗星”	1 月 31 日	13 等級	静 岡 縣	清 水 眞 一 氏	發 見
1937 b	新 彗 星	2 月 7 日	12 〃	米 國	ホ イ ブ ル 氏	ク
1937 c	ク	ク 27 日	7 〃	波 國	キ ル ク 氏	ク
1937 d	ク	4 月 6 日		濠 洲	ゲ ー ル 氏	ク
1937 e	“グリグ彗星”	ク 30 日	13 〃	米 國	カ ニ ガ ム 氏	ク
1937 f	新 彗 星	7 月 4 日	7 〃	ス キ ス 國	フ イ ン ス ラ 氏	ク
1937 g	ク	8 月 4 日	13 〃	米 國	ホ ブ ル 氏	ク
1937 h	“エンケ彗星”	9 月 3 日	18 〃	米 國	ジ エ フ ア ス 氏	ク

瀬 戸 だ よ り

10日ばかり、いい天氣が続いたと思つたら、また此頃は連日の陰曇さです。日本海を通る小低氣壓が、かなりまで影響するらしいです。反對に四國沖のものは、其の割に感じません。勿論、不連続線を引つ張つてゐない時のことですが……

建物の北側に、國旗掲揚柱が建てられました。本田さんが、何處からか生の松の木を貰つて來ました。約7米突で、素晴らしいものです。山陽線で福山一赤坂間を通られたときは、多分見えるでせう。11月3日の明治節には、早朝本田さんが、一人で君が代を奉唱しながら掲揚されました。爽秋の星見山頂高く、大國旗の翻へつてゐる光景を御想像下さい。

— Q・C 生 —